

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|-------------|-------------|
| 事業所番号 | 0890700040 | | |
| 法人名 | 株式会社 しもふさの郷 | | |
| 事業所名 | グループホーム くわの実 | ユニット名(くわの実) | |
| 所在地 | 茨城県結城市大字武井1244番地6 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 2 年 12月 18 日 | 評価結果市町村受理日 | 令和 3年 4月 6日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&Jigvo_svoCd=0890700040-00&ServiceCd=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-----------------------|
| 評価機関名 | 一般社団法人 いばらき社会福祉サポート |
| 所在地 | 水戸市大工町1-2-3 トモスミとビル4階 |
| 訪問調査日 | 令和3年2月18日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

澄んだ空気と森林の中に佇む生活環境のもと、入居者の心身状況に合わせて、その人の能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、一人一人の個性に合わせた必要な援助を行っている。また、日常的に散歩に出かけ地域住民との交流を図ったり、ヤギや小鳥などとふれあい心豊かに過ごすことができるように支援している。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、買い物ツアーや外食ツアーなどお散歩以外での地域住民とのふれあい機会は設けることができていない。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は理念を基に、管理者、職員が利用者の気持ちを理解し利用者のリズムに合わせて穏やかに生活できるように取り組んでいる。
地域交流も大事にしており、事業所独自の感謝祭を毎年開催し利用者、家族等だけでなく地域住民にも参加してもらっている。
また、行事も多く計画され利用者に喜んでもらえるようにしている。
コロナ禍となりすべての行事が出来なくなっているがおやつ作り等、利用者が楽しみながら過ごせるように工夫されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | グループホームくわの実の基本理念を施設内の見やすい場所に掲示し月に1度開催しているフロア会議の前に職員全員で唱和し確認している。また、職員は名札の裏面に基本理念を記載し、常に携帯している。 | 食堂兼居間のいつでも目に付くところに掲示するとともに、名札の裏に記入してたり、月1回のフロア会議の前に唱和することで共有している。利用者の意向に合わせてケアをするように管理者が中心となり指導しながら取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 日常的に行なっている散歩や、買い物ツアーや外食を通じて地域住民とのふれあいの機会を設けていたが、新型コロナウイルスの影響により実践できていない。 | 散歩時農作業している地域住民と会話を楽しんでいる。地域ボランティアも多く受け入れている。しもつけ感謝祭に地域住民や家族等を招待して交流を図っている。近隣の農家の方が野菜を大量に届けてくれ、調理して利用者に提供している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 海外より技能実習生の受け入れなど、社会貢献活動に取り組んでいる。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 新型コロナウイルスの影響により、感染拡大防止の観点から運営推進会議は書面会議とし、これまでに3回行った。 | コロナ禍の影響で書面会議で4回実施した。委員には書面で意見があれば知らせてほしいと伝えている。 | コロナ禍により、委員がそろって運営推進会議を開催することができないことも多い状況だが、年6回運営推進会議が開催できるよう工夫や検討を重ね運営に活かせる会議となることを期待する。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 日頃から、管理者は市担当者と機会あるごとに連携を深めるよう努めている。また、当施設主催の感謝祭には市のマスコットキャラクターを借り入れるなど市のPR活動に貢献していたが、今年度は新型コロナウイルスの影響により、感謝祭は中止とした。 | 市主催の地域密着型のグループホーム協議会に参加し、職員と情報交換を行っている。生活保護受給の利用者の生活状況報告や年1回の面会が通年だが、今年度はコロナ禍で電話での状況確認となった。事業所主催の感謝祭に市のマスコットキャラクターを借りるなどPR活動にも協力した。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束等廃止委員会を法人全体の職員で構成しており、3ヶ月に1回開催し、委員会での内容を後日職員全体に周知させている。なお、グループホームくわの実での拘束事例はありません。 | 身体拘束廃止に向けた指針を作成し3か月に1回の身体拘束等廃止委員会を開催している。会議の内容は後日職員に伝えている。マニュアルを作成しているが、職員に定期的な研修を行うまでには至っていない。 | 全職員が定期的に身体拘束排除について、研修を行い、理解が深まる機会が増え、業務に活かすことを期待する。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 身体拘束等廃止委員会主催の研修では、身体拘束に関するのみならず、高齢者の権利擁護に関することも研修しており、高齢者虐待防止に取り組んでいる。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 毎月グループホームくわの実で「フロア会議」をくわの実職員全員出席のもと開催しており、その中で議題として取り上げ、職員への周知はできている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居申し込み及び契約の際、利用者本人・家族等にゆっくり丁寧に説明し、理解を得られるよう努めている。契約内容に改定があった際には、その都度通知し、理解を得て押印してもらっている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関先に意見箱を設置しており、意見や苦情があった際には、委員会にかけ協議し、職員への周知・事業運営への反映に努めている。 | 重要事項説明書や契約書に記載されており、契約時に説明しているとともに玄関に意見箱を設置している。家族等の来訪時に話を聞くように努めている。家族等に合わせた面会方法を検討し工夫して行っている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 2ヶ月に1度、主任者会議や職長会議を開催し、管理者や主任が代表し職員からの意見や提案を協議し、反映させる機会を設けている。 | 日頃から話し易い雰囲気づくりに努めるとともに、2ヶ月に1回主任者会議や職長会議を開催し職員からの意見も反映できる機会を設けている。物品購入の意見に対応している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の健康診断やインフルエンザの予防注射を実施しており、健康管理への配慮を行っている。また、必要に応じて随時面談し、職員のメンタルヘルスにも注意を払っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員からの資格取得の希望があれば特別休暇を与えるなど側面からのバックアップに努めている。また、「研修委員会」を設置しており、定期的に研修委員会を実施する事により、職員全体の技術・知識の向上に繋がるよう取り組んでいる。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市内の地域密着型サービス事業所の職員で構成する連絡会に管理者、職員が出席し意見交換を図り交流を深めているが、今年はコロナウイルスの影響により1度だけしか開催できていない。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居する以前の事をできるだけ多く情報として取り入れておき、入居してから心身状態の不安定な部分を、会話やコミュニケーションを図るための1つのツールとして活用することで、信頼関係の構築ができるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 施設見学や契約時、家族・関係者から情報を得たり、また利用に至った経緯など詳細な情報の元ケアに努めている。また、何か変わったことがあれば適宜家族へ連絡するなどの対応をし、信頼関係を深めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 家族等から利用者の不安なことや暴言などの行動状況を聞き取り、それにより管理者が認知症の行動・心理状況から起こる性格・価値観などの要因を職員に周知し、共通認識を持ってその人に合ったケアに努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | グループホームで生活する中で出来る事は自分でする・職員が手伝いながら行う等の対応をしている。炊事・洗濯・掃除等の生活を共にする中で、出来る者が出来る事をしていくようにし、家族として対応している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ささいな事でも本人・家族に相談するなど、一方的な判断や職員の判断だけに任せないようにしている。また、家族への報告義務を怠らないようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの場所が途切れないよう、外出やお散歩をする機会を設けている。(今年度は外出なし) また、家族や友人・馴染みの人への連絡が可能の際は、電話面会を行った。 | 入居時の生活歴や家族の話から把握しており、フェイスシートや日々の関わりの中から把握している。職員は個人記録や申し送りノートにて共有している。新型コロナウイルス感染症が流行する前までは面会時にお茶を出し寛いでもらっていた。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 共同生活するうえで、利用者同士の関わりや個人個人の出来る事を理解し、見合ったレクリエーションやゲーム、園芸など趣味や娯楽の時間を提供し、交流を深めていけるよう心がけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居され他の施設に移られても、必要に応じ本人及び家族等のフォローアップに努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | サービスを提供するにあたり、本人及び家族の望む暮らし方や意向、意思を尊重しケアプランを作成している。また、作成したケアプランに基づきサービスを実施している。 | 利用者の傍で寄り添ってゆっくりと話を聞けるようにしている。表情や利用者の何気ない一言から、何を指しているのか職員が想像しながら思いや意向をくみ取るようにしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族・本人、またはケアマネージャーや医療関係者等、本人と関わりのある人たちからの情報収集に努め、利用者本位のケアに繋げている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する方等の現状の把握に努めている | 事前に収集した情報に基づいたケアプランを作成しそのケアプランに沿ったケアに努めている。実際に本人のケアをしていく上で、ケアプランに足りない情報や気づきは必ず、毎日の介護記録に残し職員間で周知している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | サービス担当者会議を定期的に行い、本人・職員との意見交換を行い、家族へは電話連絡をとり意見を聞いている。また医療関係者の意見も参考にしながら、適宜ケアプランの見直しを行っている。また、 | 毎月モニタリングを行い、基本1年での見直しとなっているが、利用者の状況や介護保険の更新時など必要に応じて見直しを行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日勤者・夜勤者それぞれが毎日個別記録を作成し、朝礼や引きつぎの際に職員間で情報共有し、適宜ケアに努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 当法人では、グループホームに併設し、ショートステイ・デイサービス・介護付有料老人ホームを有しており、利用者の個別のニーズに柔軟に対応できる体制が構築されている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ケアプランの作成にあたっては、利用者が今まで培ってきた地域資源を把握し、安心して暮らしていけるよう支援に努めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 当法人関連のしもふさクリニック(歯科)・みわの郷クリニック(内科・外科)により、定期的な健康診断や訪問診療の実施など医療体制は充実している。また、専門性や緊急性のある場合には、近隣の病院等との連携も図られている。 | 契約時にかかりつけ医の継続が可能であることを説明している。現在耳鼻科、眼科受診の利用者がいるが、職員が受診対応している。訪問歯科診療については契約した上で利用している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | グループホームくわの実の管理者は、看護資格とケアマネージャーの資格を有しているため、利用者の変化には迅速・適切に対応し、支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者が入院又は退院する場合には、ソーシャルワーカー及び医師等の病院関係者と情報交換を密にしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化や終末期の際、どのようにしていくか説明及び意向を家族や関係者と相談の上、連携を図るようにしている。また、看取りに関して定期的に職員研修を実施しており、職員への周知を図り適宜対応している。 | 重度化や看取りに関する同意書があり、看取りに関する指針を作成している。状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと、医師からの説明があり段階的な合意を行なっている。職員は年1回内部研修を受けている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 事故発生・緊急時の対応マニュアルが整備されている。フロア会議において定期的に職員に周知し、緊急時に混乱が生じないよう教育している。また、AEDが備え付けられており、市が主催する研修会に職員が参加し実践力を身に付けている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害対策として、計画的な防災訓練と消防設備点検を実施しており、利用者及び職員全体で対策している。また、夜の災害を想定しての訓練も実施しており、利用者の安全確保に努めている。 | 消防設備点検訓練と通報訓練は行われているが避難訓練が年2回実施されていない。地元消防団の協力が得られており、訓練に参加してくれることになっている。 | 年2回以上の避難訓練計画を作成し、夜間想定も含めて実施し、訓練後の反省会を行い、課題抽出も行うことで災害の意識が高まることを期待する。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者個人の尊厳を守り、誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけや接し方を行っている。 | 管理者や職員は利用者に対する言葉遣いや声の大きさに配慮して、プライバシー保護に努めている。入社時に説明する他、管理者が日頃気付いた時に職員に個別に話しているが、研修を行うまでに至っていない。 | マニュアル等作成し、定期的に研修を行うことで職員が人権尊重、守秘義務の理解が深まり業務に活かされることを期待する。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 新型コロナウイルスの影響もあり、今まで行っていた買い物ツアーや外食ツアーができず、思うように本人の希望を叶える事が難しい場面もあったが、職員が代理で行える事に関して多くの意見や要望を聞くように働きかけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している | レクリエーションやイベント等、施設内行事を行う中で、本人の意思を尊重し、居室でゆっくり過ごしたいと言う利用者がいれば、要望通り対応すると言った出来る限り意思を尊重した支援を行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 自分で整容が困難な利用者には職員が支援しており、月に2回出張理美容のサービスを受け付けており、適宜理美容のサービスも実施している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者の心身の状態、能力に応じてできるものは、職員と協力しながら行っている。昼食は職員と一緒に食べ、家族団欒の雰囲気づくりに努めている。 | 併設の通所介護事業所の管理栄養士が献立を作成し、調理されたおかずが届く。近隣農家より頂いた食材もメニューに取り入れている。利用者は米研ぎやおかずの盛り付けなどを職員と一緒にやっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量・栄養バランス・水分量などを計算し、一人一人にあったサービスを提供している。また、食事・水分形態にも留意している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 義歯・自歯ともに本人又は職員が毎日、口腔ケアに努めている。また、毎週しもふさクリニック(歯科)による口腔ケア・予防も実施している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 利用者の自尊心を傷つけないよう留意し、排泄パターンを理解したうえで適宜トイレ誘導を行っている。 | 排泄チェック表等からそれぞれの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行いきるだけトイレでの排泄を支援している。手すりも設置して排泄の自立に取り組んでいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 利用者一人一人の体調に合った水分量を摂取していただくよう促し、飲水量の記録を徹底している。また、排泄時間の記録をつけ、尿量や排便には留意している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴は利用者の希望の時間帯を考慮している。また、一人で入浴を希望されるかたは、次の人を脱衣所に入れれないなど創意工夫しながら実施している。 | 利用者の意向に沿っていつでも入浴できるよう支援している。入浴した日を表につけて利用者が見える形で説明し、スムーズに入浴ができるように支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者の心身状態が違っているので、安静や休息時間は個々に応じて対応している。また、就寝時間も日課表にとらわれず希望される時間帯にしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬については、管理者である看護師がその使用方法、誤飲防止の方策など、常に職員に周知している。特に誤飲については重大事故になるため、利用者への声かけなど本人確認を徹底している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | くわの実菜園の手入れや、小鳥やウサギのエサやり等、個人個人に合った役割を決め日々楽しく過ごしている。また、お散歩に出かけたり、季節ごとの果物を収穫したりするなどの気分転換も図られている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 買い物ツアーや外食ツアー、桜・菊鑑賞など定期的に外出機会を設けている。また、天気の良い日には近隣にある野菜畑や併設の有料老人ホームでヤギや小鳥を飼育しているので、散歩に出かけている。ただし、今年度は新型コロナウイルスの影響も考慮して近隣へのお散歩以外を中止とした。 | 近所へ散歩に出かけている。中庭で外気浴も行っている。以前は買い物ツアーや外食ツアー、花見などに出かけていた。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 防犯上の観点から、お金は所持させていないが、買い物ツアーに出かけたときは、家族から預かっているお金であることを伝え、支払いを本人に行わせるなど、金銭感覚を忘れない様にしている。今年度は新型コロナウイルスの影響により買い物ツアーは中止している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話については、ホール内にある電話で、職員が支援しながら本人が直接かけるようにしている。手紙については本人に書かせているが、宛先が不十分のため、家族に直接渡している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 毎月、利用者と職員と一緒に手作りカレンダーを作成し、掲示している。また、1年間の行事で撮ったコメント付き写真を廊下に掲示し、くわの実菜園で収穫した野菜やお花を飾り、季節感や生活感を採り入れている。 | 中庭に備え付けのテーブル、椅子が設置されており、天気の良い日には、お茶を飲んだり外気に触れたりして過ごしている。居間兼食堂には利用者の作品や行事の写真が掲示されいつでも思い出することができるほか、ソファが設置されており、家族等と面会時も寛いで過ごすことができる。また、観葉植物や熱帯魚等も飼育しており目でも楽しめる雰囲気ができている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホール内・居室・ソファ等基本的に自由に過ごして頂いている。レクリエーションやゲーム、食事の際はホール内に集まり楽しめるよう工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅や落ち着いた場所や物、写真などを飾る等、居心地よく過ごせる様対応している。また、希望によりベッドから畳に替えることもある。 | 居室にはエアコンやベッド、洗面台、カーテン等が備え付けられている。管理者は家族等になるべく利用者本人が使い、慣れ親しんだ物を持参してもらえるように入所時に話している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者の日常生活を良く観察し、本人ができること出来ない事を把握して安全な生活が送れるよう支援している。 | | |

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム くわの実

作成日 令和 3年 4月 6日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|---|---------------------------------------|---|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目 標 | 目標達成に向けた具体的な取組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | (3) | コロナ禍により、委員が揃って運営推進会議を開催することが出来ないことも多い状況だが、年6回運営推進会議が開催できるよう工夫や検討を重ね運営に活かせる会議となることを期待する。 | 概ね2ヶ月に1回、年6回開催できるように年次計画を立て実践するよう務める。 | 季節行事や防災訓練などの実施に合わせ、年6回開催する。 | 12ヶ月 |
| 2 | (5) | 全職員が定期的に身体拘束廃止について、研修を行い、理解が深まる機会が増え、業務に活かすことを期待する。 | 年2回の職員研修を実施する。 | 高齢者虐待防止を前提に、身体拘束をしない・させない取り組みの研修会を、上半期に1回・下半期に1回全職員を対象として実施する。 | 12ヶ月 |
| 3 | (13) | 年2回以上の避難訓練計画を作成し、夜間想定も含めて実施し、訓練後の反省会を行い、課題抽出も行うことで災害の意識が高まることを期待する。 | 災害総合訓練と夜間想定訓練をそれぞれ1回実施する。 | 夜間時に火災及び震度5以上の地震が発生した訓練を実施する。まだ、幹部クラスの職員は災害が発生した場合には、直ちに現場に召集する訓練も実施する。 | 12ヶ月 |
| 4 | (14) | マニュアル等作成し、定期的に研修を行うことで職員が人権尊重、守秘義務の理解が深まり業務に活かされることを期待する。 | 個人情報取扱マニュアルを作成し(既に作成済)、職員研修を実施する。 | しもふさの郷個人情報取扱マニュアルに基づき、フロア会議等を利用して、職員研修を実施し、人権意識を高める。 | 6ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。